



News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 455号

2012. 10. 16
毎月1回・20日発行

発行責任者
岸田 義典

目次

2012

9月号

- アフリカ稲作振興のための共同体
—現状と今後の課題, 農業機械化促進について..
..... 2
- 独立行政法人国際協力機構
JICA ケニア事務所 / CARD 事務局
企画調査員 藤原和幸
- 国別輸出入 (2012年7月) 11
- WORLD NEWS 16
- EVENTS CALENDER 19

アフリカ稲作振興のための共同体 —現状と今後の課題, 特に農業機械化促進について—

独立行政法人国際協力機構 JICA ケニア事務所 / CARD 事務局
企画調査員 藤原和幸

国際農業機械化研究会は、(株)新農林社と共催で、第 456 回海外農機事情報告会を平成 24 年 9 月 24 日 (月) に開催した。講師は、JICA ケニア事務所 / CARD 事務局の企画調査員 藤原和幸氏。藤原氏は、JICA ケニア事務所調査員としてアフリカ稲作振興のための共同体事務局に出向 (www.riceforafrica.org)。ナイロビに在勤して二年半が経つ。アフリカの米生産の実情と機械化の促進について映像と共に紹介した。

要旨は以下の通りである。

まず最初にサブサハラアフリカでの米生産と消費の実情を概観する。次に、当イニシアチブの現状と課題について、特に農業機械化促進の取り組みを紹介する。また、なぜ今アフリカの農業なのか、稲作にビジネスチャンスがあるのか。具体的なビジネスプランのご提案ではなく、「チャンスがある」ということをお伝えしたい。

サブサハラアフリカにおける米の生産と消費の実状

アフリカの主要な主食作物のうち「米」と「小麦」は他作物と異なり、需要と消費のギャップが過去 50～60 年の間、年々拡大している傾向にある。JICA は、域内に拡大する市場を抱えて、生産性向上の余地と、より栽培適地が多いと考えられるお米に着目した。2008 年の食料価格高騰による食糧安全保障上の危機への国際的な対応が求められるなか、「アフリカの緑の革命」へ向けてお米を切り口に取り組むべく、当イニシアチブが他の国際機関等との協力の下、立ち上げられた。

まずは消費の面を概観する。一人あたり年間消費量約 60kg 強となった日本人より米を食べている国も多くある (図 1)。祖先にマレー系の民族を持つマダガスカルは一人あたり年間で 120kg 食べている。西アフリカでは伝統的にお米を主食として食べている国が多くあり、セネガルやコートジボアールも一人あたり年間消費量は 70kg 以上である。一方、東アフリカでは、ケニアやタンザニア等を例にとると、とうもろこし (メイズ) を製粉して蕎麦がき

のように熱湯でこねたウガリと呼ばれる料理が主食で、米はハレの日、お祭りの日に食べるものに過ぎなかった。しかし、最近では主食に取って代わるほどではないが、特に都市部での消費が増えてきている。それ以外の地域・国でも、都市化や所得の増加に伴い米の消費が増えていると見ることができる。

嗜好や食べ方も様々である。米も、全粒米だけを食べる人ばかりではない。セネガルでは碎米 (砕けたお米) を魚と一緒に炊く有名なチェブジェンという料理があり、クスクスのような食感で好まれている。また、東アフリカでは、長粒種インディカ米「バスマティ米」をはじめとする香り米が好まれ、価値が高い。アラブ世界やインドとインド洋をまたいだ交易が昔からあり、その影響も強いのではないかと考えられる。西アフリカの内陸国のブルキナファソでは、台湾の 10 年以上の古米が入ってきている。古米の方が乾燥しているので、炊いた際に 25～30% 膨張することが、経済的であるとして消費者に好まれる傾向があるとの調査結果がある。

次に生産の面を概観すると、サブサハラアフリカ全体では初ベースで年間約 1,500 万 t が生産され、そのうち約 400 万 t ずつを両巨頭のナイジェリア、マダガスカルが占めている。その他主要な生産国は、ギニア、マリ、コートジボワール、シエラレオネ等であり、50 万 t～100 万 t が生産されている。西アフリカでは、商業的な灌漑水稻稲作以外にも、自家消費として天水低湿地や天水畑地で稲作を営んでいる農家も多くある。東アフリカでは、多くの小規模農家にとってはどちらかというと換金作物という